

私立高等学校に通う生徒・保護者の意識調査速報（概要）

平成21年11月20日

私学文書課

【調査の概要】

目的 私立高等学校を受験・入学するにあたっての選択基準、高校教育への期待など、生徒及び保護者の意識のほか、本県における私学支援に対する認識とその方向性等について、生徒・保護者の意向を把握し、今後の支援策の参考資料とすることを目的として調査を実施。

対象 私立高等学校に在籍する生徒（高1～高3）及びその保護者
標本数：3,388世帯（生徒・保護者合わせて6,776人）
私学全22校を対象に各校の普通科及び職業系学科から3～6クラスを抽出
有効回答数：生徒2,886人分（回答率85.2%）
保護者2,634人分（回答率77.7%）

実施期間 9月7日から9月18日までの12日間

調査結果

就学している学校について

- ・入学前は公立志望が多いが、入学後の満足感は保護者が7割弱、生徒が5割以上に認められる。
- ・学校を選ぶうえで重視した点は「学力・偏差値」、「通学の便」、「部活動」、「校風・校訓」の順となっている。
- ・入学して良かったと思う点は、保護者、生徒とも「部活動（ボランティア活動含む）」（保護者23.7%、生徒29.9%）「特定の技術・技能・資格が身につく」（保護者23.4%、生徒20.3%）等を挙げた人が比較的多かった。
- ・改善して欲しい点としては、保護者、生徒とも「学費等の額」（保護者34.8%、生徒31.0%）が一番多かった。生徒は「教職員の質」が2番目に多かった（23.8%）。

教育費について

- ・8割以上の保護者が学校を選択する際、入学金や授業料が影響と回答。学費についても負担感が8割以上。

- ・学校を選択する際に、8割以上の保護者が「入学金や授業料の金額の多少が影響した」と答えており、また、8割近くの保護者が現在も家計において、学費（学校に支払う費用）を「負担に感じる」と答えている。

卒業後の進路希望について

- ・卒業後の進路は「大学進学」が多い。保護者は半数近くが希望。
- ・就職希望の理由は「経済的に進学させる余裕がない」（保護者46.7%）、「働いて家計を支えたい」（生徒38.0%）。
 - ・「経済的に進学する余裕がない」とする者に対して、経済的支援があれば大学へ進学させたいかの間に対しては保護者の46.1%は「進学させたい」と回答（生徒は31.5%が「進学したい」）。
 - ・また、奨学金や入学支度金を活用してまで進学させようと思わない家庭は、その理由として「貸付金を返還しないといけないから」（55.7%）を半数以上の人が挙げ、借金への負担感を重く感じていることがわかった。「金額的に十分ではないから」（34.1%）にのぼっている。

県の支援策について

- ・6割以上の保護者が家庭の経済的負担の軽減を求めている。
 - ・今後、熊本県が行う私立高校に対する支援策としては、6割以上の保護者が「家庭の経済的負担の軽減（授業料の軽減、奨学金補助等）に関する助成金に重点をおく」（62.8%）という支援策を挙げており、家庭の負担感の解消を望んでいる。
 - ・私立高校在学中及び大学進学に向けた家庭の経済的負担の軽減に関する助成制度は、保護者、生徒とも「入学後の月々の授業料を助成する制度」を一番に挙げる人が多く、特に保護者では、それぞれ78.5%（高校在学中の助成）、65.9%（大学進学の助成）が望んでいる。

その他

- ・不登校・いじめへの対策について、保護者は重視。
 - ・学校での不登校・いじめへの対策について、生徒は、「対策の強化が必要である」（37.3%）と「現状のままでよい」（39.9%）の割合はほぼ同程度であったが、保護者は6割半ばが「対策の強化が必要である」（64.5%）としており、保護者の憂慮感が強い。
 - ・自由記述の意見要望では「私学のアピールの必要性」、「公私間格差の是正」、「学校間の交流」等があげられた。